

# トライアスロンの普及と強化

## Popularization and Intensification of Triathlon

1K06B059

指導教員 主査 武藤泰明先生

奥山正悟

副査 原田宗彦先生

### 【緒言】

トライアスロンとは水泳、自転車、ランニングの3種目を続けて行い、その合計タイムで順位を競うスポーツである。マイナースポーツであるトライアスロンだが 2008 北京五輪で井出樹里選手が日本人初の5位入賞を果たしたことや芸能人のトライアスロン参戦によってメディアに取り上げられる回数が増えてきた。近年はトライアスロンブームと言われており競技者も増加している。競技者が増加する一方で筆者は以前からトライアスロンを始める際に水泳に抵抗を持つ人が多いことを感じてきた。水泳経験者の方がトライアスロンを始めやすいということであれば水泳人口の増加や水泳経験者に対するアプローチによってトライアスロン人口も増加するのではないかという仮説を持つようになった。また、大会の上位入賞者や日本のトップアスリートには水泳経験者が多いとも感じてきた。本論文では質問紙調査の結果を元にこれらの仮説を検証し、トライアスロンの普及と強化の可能性を明らかにすることを目的とする。

### 【方法】

普及に関しては全国12箇所のトライアスロンスクールに協力していただき、会員の方々を対象に質問紙調査を行なった。主な調査項目は トライアスロンの参入障壁となりうる種目 過去の経験スポーツと成績の関係である。強化に関しては「過去3年間のジャパンカップシリーズ大会上位10%の選手」を対象に質問紙調査を行なった。主な調査項目は 日本国内トッ

プクラスの選手になるためには 日本人選手が海外選手に勝つためにはである。

### 【結果】

トライアスロンを始めるにあたって最も不安を感じた種目は水泳が6割と最も多かった。また、水泳未経験の回答者では9割もの方が水泳と回答。一方、水泳経験者で水泳と答えた回答者は2割であった。また、スクール会員におけるハイレベル競技者については65%が水泳経験者という結果であった。一方で、日本のトップアスリートにおいてはほぼ全員が水泳経験者であり、その内の半数は水泳と陸上の両競技を経験していた。陸上のみの経験者はいなかった。

### 【考察】

本調査からトライアスロンの参入障壁は「水泳」であることがわかった。水泳経験者の方がトライアスロンを始めやすいということは「水泳人口を増やす」「水泳経験者をトライアスロンに取り込む」ことがトライアスロンの普及に必要なことと考えられる。また、日本のトップアスリートはほぼ全員が水泳経験者であり、水泳経験者の方がトライアスロンで上位に入賞できる可能性が高いことがうかがえた。本調査の結果からトライアスロンの普及にも強化にも「水泳」が大きな鍵を握っていることがわかった。

## 【結論】

本調査からトライアスロンの普及、強化にはトライアスロンの組織のみの取り組みではなく、日本水泳連盟やスイミングスクールなどの水泳組織を巻き込んだ取り組みが有効であるということがわかった。しかし、現時点ではトライアスロンと水泳の組織の共同の取り組みはなされていない。水泳の大会のパンフレットにトライアスロンの情報を載せる、トライアスロンは水泳経験者に有利であるという情報を発信するなど今後、他の組織との横の繋がりを持つことでトライアスロン人口が増え、競技力も向上すると考えられる。今回の研究が今後のトライアスロンの更なる普及、強化へのきっかけとなり、トライアスロン界の発展に寄与できれば幸いである。